

レタス管理情報（11月以降の管理）

令和7年10月

JA福岡京築、京築普及指導センター

管理のポイント

①11月末～12月上旬頃にトンネル被覆

- 平均気温が8～10℃以下になる頃が目安です。
- 被覆開始が5型や6型の収穫時期と重なるため、作業遅れに注意しましょう。

②適期収穫の徹底

- 高温により、生育の前倒しが懸念されます（図1）。通常でも、秋期（5型頃）収穫までは、生育が早いので収穫遅れに注意しましょう。

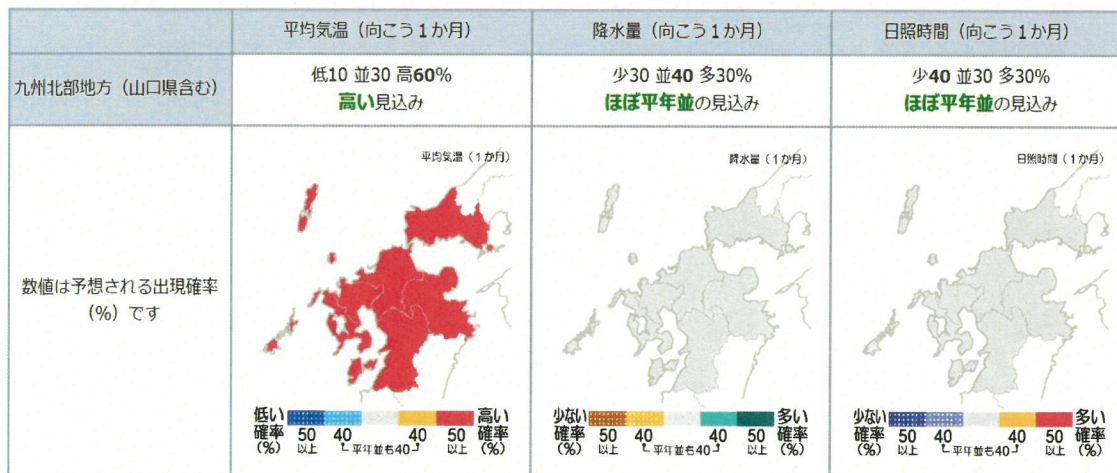
③病害虫防除を徹底

- 現在、ヨトウムシ類が多くなっています。また、降雨が多く、べと病や菌核病の発生が予想されますので、ヨトウムシ類との同時防除を実施しましょう。

1 今後の気象予報

- 向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため高い見込みのため、病害虫の発生や収穫遅れに注意しましょう（図1）。

図1 1か月予報（福岡管区气象台 10月23日発表）



2 トンネル被覆

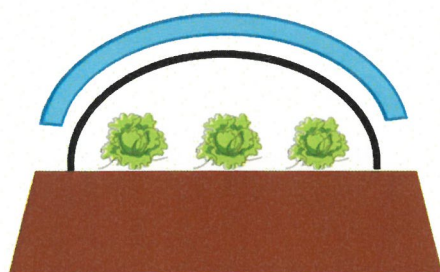
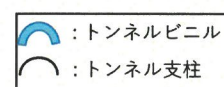
- (1) 被覆が遅れると小玉になったり、霜害による病気が発生したりするため、早めに準備し、平均気温が8～10℃となる11月末～12月上旬頃に行く(表1)。
- (2) トンネル被覆後、気温が高い場合は両裾を20cm程度開け換気(霜よけ程度)を行う。

表1 トンネル被覆目安時期 ※7型：山間部、定植遅れ等の場合は被覆を検討

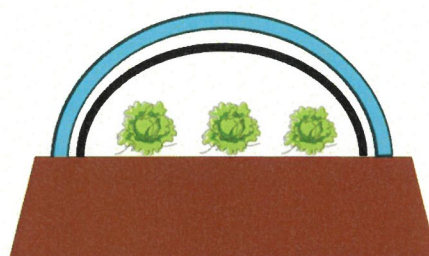
作型(品種)	被覆準備	被覆時期の目安
8～9型(+7型) (チアフル、レガシー等)	11月下旬頃	11月末頃 (平均気温が10℃程度)
10～15型 (クラウドブレイク等)	12月上旬頃	12月中旬頃 (平均気温が8℃程度)
16～19型 (しずか、マイヤー)	定植時	定植直後

3 生育期に応じたトンネル管理

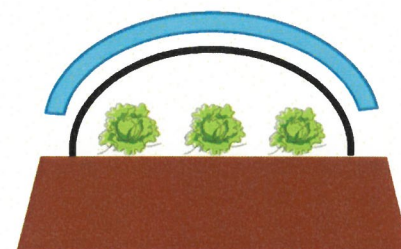
生育状況や温度に応じて、換気などのトンネル管理を行うことで品質向上(たこ足、病害回避)につながるため、以下を参考に管理する。



- 定植直後～定植10日後
- ・両裾換気を行い、活着促進
- ・両裾の換気幅は20cm程度



- 外葉形成期～結球開始初期
- ・両裾を閉め、葉の展開を促す
- ・30℃を超える高温時は、風の当たらない側を30cm程度片換気する(20～25℃目標)



- 結球期～結球完了期
- ・両裾の換気20cm程度を行う(15～20℃目標)

4 適期収穫・品質向上

- (1) 収穫遅れは、病害球や裂球などの品質低下を招くので、適期収穫に努める。
- (2) 鉄製の包丁で収穫すると、切り口が酸化して変色しやすいので、ステンレス製の包丁を使って収穫する。
- (3) 切り口褐変防止のため、収穫後、最低2時間程度の乾燥処理（玉殺し）を徹底する。また、切り口を食塩水（水 1 L に食塩 100 g）を浸した布で拭く。もしくは、レタスを切り離れた後、マルチ上に置床後、背負い動噴で切り口を洗浄する。

5 病害虫対策

(1) ベと病

- ・ 11～4 月頃に発生し、低温（8～15℃）と多湿により、発生が助長される（図2）。
- ・ 冬から春にかけてのトンネル栽培で発生が多い。
- ・ 耕種的防除として、換気を十分に行い、湿度を低く管理する。



図2 ベと病の病徴

(2) 菌核病

- ・ 厳寒期を除く年内や春先に発生し、多湿により発生が助長される（図3）。
- ・ 耕種的防除として、換気を十分に行い、湿度を低く管理する。



図3 菌核病の病徴

(3) 腐敗病

- ・ 11～4 月頃に発生し、低温と多湿により発生が助長される（図3）。
- ・ 凍霜害を受けると出やすいので、トンネル被覆が遅れないよう行う。



図4 腐敗病の病徴

(4) ヨトウムシ

- 例年、10月末までの発生が多いが、気温が高い場合は11月にも発生が見られる。
- 結球後は薬剤が浸透しないので、結球開始期までの防除を徹底する。



図5 ハスモンヨトウ
(中齢・老齢幼虫)

(5) アブラムシ類

- 9～11月に発生が多い。
- 結球内部に入り込むのを防ぐため、結球開始期までの防除を徹底する。

●防除薬剤事例

2025年8月登録反映

薬剤名	適用病害虫	希釈倍率	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	RACコード
アディオソ乳剤	アブラムシ類、ヨトウムシ	2000～3000倍	収穫3日前	5回以内	I:3(A)
グレース乳剤	オオタバコガ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ、ナモグリバエ	2000～3000倍	収穫3日前	2回以内	I:30
ヨーバルフロアブル	アブラムシ類、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ、ハモグリバエ類	2500～5000倍	収穫前日	3回以内	I:28
ディアナSC	ハスモンヨトウ、オオタバコガ、ハモグリバエ類	2500～5000倍	収穫前日	2回以内	I:5
ヨネポン水和剤	べと病、軟腐病、腐敗病、斑点細菌病	500倍	収穫14日前	4回以内	F:M01
ダコニール1000	べと病、灰色かび病、すそ枯病	1000倍	収穫14日前	3回以内	F:M05
アミスター20フロアブル	べと病、菌核病、灰色かび病、すそ枯病	2000倍	収穫7日前	4回以内	F:11
アフエットフロアブル	菌核病、灰色かび病、すそ枯病	2000倍	収穫前日	3回以内	F:7

※使用時期に注意して使用する薬剤を決定しましょう。
散布前に必ずラベルを確認しましょう。